

# ヒュウガミズキ

*Corylopsis pauciflora* Sieb.et Zucc.

マンサク科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー 該当なし

## 選定理由

生育地が限られている。個体数も極めて少なく、分布の北限に位置し、分布上重要である。(現況:RO)

## 形態

葉身は卵円形で長さは3~5cmと小さく、先はとがり、基部は切形または浅心形、表面にはほとんど毛がなく、植栽のトサミズキと区別できる。花は葉より先に開花する。花序には1~3個の黄色い花をつける。

## 国内分布

日本海側の山陰東部から北陸西部。

## 県内分布

南加賀区。

## 生態など

高さ1.2~2mの落葉低木である。開花期は3~4月。果実は朔果で球形、中ほどまで萼筒に包まれ、その中に種子が入っている。

## 生育環境

ウラジロガン群団域に生育する。ソコゴ、コナラ、アカシデ、ノリウツギ、ヒメアオキ等を構成種としてヒュウガミズキ林を形成している。

## 危険要因

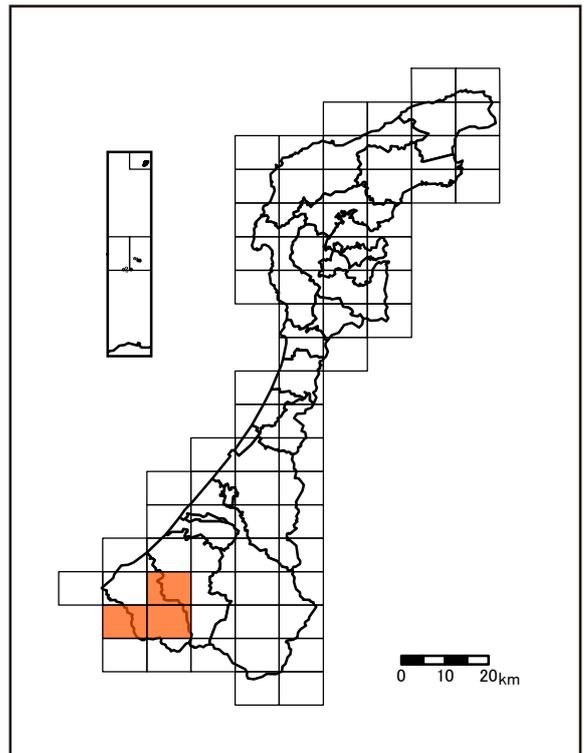
森林伐採、道路工事、園芸採取、自然遷移、産地局限、その他。

## 特記事項

生育地には特定植物群落に指定されているものもある。鞍掛山を中心とする産地の地質は酸性岩の緑色凝灰岩で、塩基性の蛇紋岩地帯ではない。



本多郁夫・2005年4月2日・加賀市



県内の分布